

マンスリー・サンズ・トーク(60)

2013.11.1

木村 譚

坂東武者 平将門の話

創建天平2年(730)とされる神田明神は、もと大手町にあった。現在、その跡地は、将門の首塚として残っている。徳川家康は、江戸開府後の元和2年、平将門を祭神としたこの社を、江戸城の鬼門に当たる神田に遷座し、江戸っ子の崇敬を集めてきた。家康は、将門を日本で始めて政権を目指した武者と評価し、幕府統治のシンボルにしたのであった。



神田明神

平安時代中期、律令制度による国の支配がほころびはじめた。朝廷により各地の国司に任ぜられた貴族が、国、郡、郷を統治してきたが、領地や地位継承の問題が多発して制御が困難になっていた。

平将門は、桓武天皇の末裔として下総に生まれた。青年期、京にのぼり、藤原氏の衛士を務めたが、その後東下し、在郷の叔父など豪族たちの領地争いに巻き込まれていった。農兵を組織し、指揮することに長けていて、次第に下総から常陸、上総、下野、上野と支配を広げるようになり、ついには関東の国司をみな追放し、各国の印を手中に収め、天慶3年(940)、自らを新皇と自称するに至った。これが天慶の乱である。その後、藤原秀郷、平貞盛に討たれ、その首は、平安京でさらし首にされたという。

将門調伏の勅命

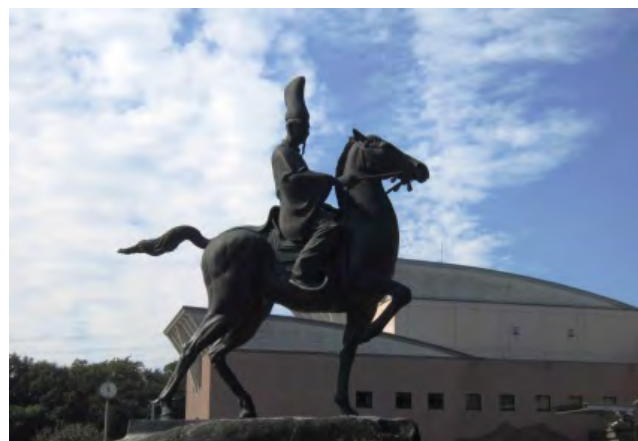
将門が坂東八カ国を手中に収め、その上、新皇を呼称するのは朝廷にたいする重大な反逆。事態に驚愕した朱雀天皇は、寺僧を下総の公津に差し向け、不動明王を祀って将門調伏の祈祷をさせた。これが

成田山新勝寺の由来という。今、初詣客に賑わう成田山も、新皇を打ち破るという物騒な名前の寺だったのだ。



関東平野を疾駆した将門の騎馬軍団

平将門は、今の茨城県坂東市の岩井に本拠を置き、騎馬隊を駆使し、機動力により関東八州を攻略したが、その2ヵ月後、敵襲に囲まれて討ち死にしてしまった。当時、このあたりは鬼怒川、小貝川の氾濫原で、足場も悪かったのが敗戦の因となったのだろう。岩井、猿島を車で走ったが、開発された現代でさえ、広漠たる平地がどこまでも続く田園なのであった。



坂東市音楽ホール正面の将門騎馬像

徳川幕府の時世には、武家政権の始祖と評価された将門も、明治維新となり、天皇が東京に来られると、さすがに朝廷にはばかりありとして、神田明神の祭神からは外されていたが、戦後になると再び祭神として復活したのであった。坂東市では、今年を将門生誕1111年として、東国の自立を夢見た男を偲ぶ行事が進められているのだ。

マンスリー・サンズ・トークは、今回で60号となりました。皆様のご高覧、ご批評を感謝いたします。